

突然死した小児心疾患症例の検討

佐藤 哲雄

要約：当科における小児心疾患死亡例のうち突然死の転帰をとった症例22例について検討を加えた。これらの突然死のほとんどは自宅で家族が見ている前で急にぐったりし呼吸停止に陥り近くの医療機関に運ばれたが、その間に家族による救急蘇生法は試みられず来院時死亡と診断された。突然死を予防するためには適切な内科的・外科的治療と家族への知識と救急蘇生法の指導が重要である。

見出し語：小児心疾患、突然死、低酸素血症、心不全、救急蘇生法

【目的と対象・方法】

小児心疾患々児の死亡症例のうち突然死した症例を解析し、突然死の防止のための対策について検討した。対象は昭和51年10月より平成2年6月までの14年間に当科において診療した小児心疾患々児2302例のうち死亡例166例(7.2%)である。

【結果】

小児心疾患患者の死亡例166(死亡率7.2%)のうち突然死症例は22例(13.3%)であった(表1)。このうち先天性

心疾患が20例で、ほかには原発性肺高血圧症が1例、不整脈が1例であった。非手術死亡43例中7例(16.3%)、姑息手術後遠隔期死亡18例中10例(55.6%)、根治手術後遠隔期死亡14例中5例(35.7%)が突然死であった。手術をせずに突然死した症例7例のうち低酸素血症が3例、心不全が2例、完全房室ブロックのペースメーカー・トラブル1例、原発性肺高血圧症(家族性)が1例であった(表2)。このうち、低酸素血症の3例は短絡手術を予定しているうちに自宅で突然死し、

心不全の2例は姑息手術の困難な症例であり、原発性肺高血圧症の1例は他病院で肺生検を行ない著明な肺血管閉塞性病変が証明されて退院当日病棟にて心筋硬塞様症状を呈して急死した。姑息手術後遠隔期に突然死した症例10例のうち低酸素血症が7例、心不全が3例であった(表3)。これらのうち、低酸素血症の7例はすべてBlalock短絡術後であった。心不全の3例は共通房室弁口と総動脈幹症に対する肺動脈絞扼術後であった。根治手術後遠隔期に突然死した症例5例のうち肺血管閉塞性病変が1例、ペースメーカー・トラブル2例、Adams-Stokes発作および原因不明がそれぞれ1例であった。これら22例の突然死のほとんどは自宅で家族が見ている前で急にぐった

りし呼吸停止に陥り近くの医療機関に運ばれたが、その間に家族によって救急蘇生術が試みられた例はなくいずれも来院時死亡と診断され病理解剖された例はなかった。

【考察】

小児心疾患で突然死を来した治験症例を検討した結果、死因としては低酸素血症(10例)、心不全(5例)、肺血管閉塞性病変(2例)などが多くこのような小児心疾患症例の突然死を予防するためには適切な短絡手術による低酸素血症の改善と心不全の病態や症状などについて知識をの家族へ教育するとともに緊急時におけるmouth-to-mouthの人工呼吸法と心マッサージ法などの救急蘇生法を指導することが重要である。

表1. 小児心疾患の疾患群別予後

疾患群	患者数(%)	死亡数(%)	突然死
1 先天性心疾患	1570(68.2)	158(95.2)	20
2 リウマチ性心疾患	17(0.7)	0	0
3 川崎病(MCLS)	448(19.5)	1(0.6)	0
4 感染性心疾患	5(0.2)	0	0
5 原発性心筋疾患	27(1.0)	5(3.0)	0
6 Pompe病	1(0.0)	0	0
7 心臓腫瘍	3(0.1)		
8 原発性肺高血圧症	4(0.2)	1(0.6)	1
9 不整脈	221(21.7)	1(0.6)	1
10 その他の心疾患	6(0.3)	0	0
	2302(100%)	166(7.2%)	22(13.3%)

表2. 手術をせずに突然死した症例

症例	診断	死亡時年齢	死因
1	無脾症候群 二腔心室 肺動脈閉鎖症	1才1ヵ月	低酸素血症
2	ダウン症候群 ファロー四徴症	3才9ヵ月	低酸素血症
3	三尖弁閉鎖症(Ib)	5ヵ月	低酸素血症
4	ダウン症候群 心室中隔欠損症 大動脈弁閉鎖不全症	5ヵ月	心不全
5	総動脈幹症	10ヵ月	心不全
6	完全房室ブロック	6才9ヵ月	△-スレーカ・トラブル
7	原発性肺高血圧症(家族性)	9才11ヵ月	肺血管閉塞性病変

表3. 姑息手術後遠隔期に突然死した症例

症例	診断	手術々式	手術時年齢	死亡時年齢	死因
1	三尖弁閉鎖症(Ib)	B-T短絡手術	6ヵ月	9ヵ月	低酸素血症
2	無脾症候群 二腔心 肺動脈閉鎖症	B-T短絡手術	1才6ヵ月	2才9ヵ月	低酸素血症
3	無脾症候群 二腔心 肺動脈閉鎖症	PDA ホルマリン固定術 B-T短絡手術	1ヵ月 2ヵ月	3才7ヵ月	低酸素血症
4	肺動脈閉鎖症	B-T短絡手術(2回) B-H手術	1ヵ月 1才1ヵ月	2才4ヵ月	低酸素血症
5	ダウン症候群 二腔心 肺動脈狭窄症	B-T短絡手術 m・B-T短絡手術	7ヵ月 8ヵ月	4才4ヵ月	低酸素血症
6	無脾症候群 二腔心 肺動脈閉鎖症	A-PA短絡手術	5ヵ月	20才11ヵ月	低酸素血症
7	修正完全大血管転位症 肺動脈閉鎖症	心室中隔欠損症 B-T短絡手術	9才11ヵ月	19才10ヵ月	低酸素血症
8	ダウン症候群 共通房室弁口	肺動脈絞扼術	9ヵ月	1才1ヵ月	心不全
9	共通房室弁口	肺動脈絞扼術	1ヵ月	1才2ヵ月	心不全
10	総動脈幹症	肺動脈絞扼術	5ヵ月	1才2ヵ月	心不全



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:当科における小児心疾患死亡例のうち突然死の転帰をとった症例 22 例について検討を加えた。これらの突然死のほとんどは自宅で家族が見ている前で急にぐったりし呼吸停止に陥り近くの医療機関に運ばれたが、その間に家族による救急蘇生法は試みられず来院時死亡と診断された。突然死を予防するためには適切な内科的・外科的治療と家族への知識と救急蘇生法の指導が重要である。